第72回小規模多機能ホーム ほほえみ 地域密着型サービス運営推進会議

令和4年4月23日 管理者 小場佐真一

Ⅰ 登録者の状況(令和4年4月23日現在)

区分 性別	要支援	要介護 1	要介護 2	要介護	要介護 4	要介護	合計
男性	1	0	1	0	0	0	2
女性	1	7	3	2	2	1	16
合計	2名	7名	4名	2名	2名	1名	18名

入居者の年齢平均:87.3歳/最高年齢:97歳/最低年齢:79歳

●登録者定数 25名 :現在の登録者 18名

●通い利用定数 18名 : 平均利用数 13.6名 (2月~4月現在まで) ●宿泊利用定数 9名 : 平均宿泊者数 8.1名 (2月~4月現在まで)

2 活動状況の報告

有限会社えがおの今年度の介護目標は〈助け合う介護〉です。働き手不足や職員の高齢化など介護施設には課題が多くあります。課題を乗り越えていく為、みんなで助け合いながら介護を充実させていきたいという想いが込められています。そこでほほえみでも〈助け合う介護〉を実践する為、また昨年行った外部評価の結果も踏まえながら具体的な目標を立てましたので今回議題で取り上げたいと思います。

- ① (ケアの質を高めるための) 情報の共有とケアの適切な評価を行う
- ②災害など緊急事態への対策(BCP)
- ③不適切なケアの撲滅

①情報の共有とケアの適切な評価について

助け合う介護を実践するためには利用者の情報を過不足なく、適切なタイミングで共有する必要があります。ほほえみでは月に1度ケア方法や注意点についてスタッフ全員で話し合っていました。介護や病院受診の記録、ケアプランを基にして意見を出し合っていましたが、非常に時間がかかってしまう点が課題でした。

もっと効率よく情報共有を図るため、先月から登録者の課題やケアの方法 などの要点をまとめた一覧を新しく作成し、その一覧を元にして話し合いを 行うようにしました。

情報対応	水極性類天相備 両下級水板多衡にて処置中 系級炎にて抗生剤開始 領原傾向 意識消失発作あり 看取り開始	私物へのこだわりあり 夜間PWG使用 ベースメーカー	ウォーカーにて歩行 転削リスク高い リハマン、バット汚染あり 内観薬に執着あり 夜間PMC使用 尿酵出不良、類尿あり	遊られ妄想あり 水分根取過多注意 腫瘍にては多行される 下鉄浮礁出現時歩行不安定 突然の低りあり 入浴拒否みられる	原力デーテル挿入中 奥権監査あり(3回/週) 下版評職の の不全兆候あり 原星、水分量チェック 排便コントロール中
最終受診	2/25性餘	抗凝固剂内服中内出血注意			
	43.9	32.2(+0.2)	34.1 (-1.6)	44.3	47.0
休夏 処方	100	000(100)		21/2	77.0
直圧・馴拍 状態変化	BP 90~120/50~00 P 50~80 BT 381~37.7 下肢水孢多类 重旋消失免性あり 2/22~発熱 2/23维氮罐炎診断	BP 10~120/40~60 P 59~51 BT 359~37.0 体間変化なし	BP 90~120/60~80 P 70~30 BT 363~274 ~帯状疱疹にて発熱 陰部水瘟療風化あり 発熱中、環鳴あり 現在は帯状疱疹定治 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8P 110~150/40~90 2月中旬から直圧上見傾向 P 50~60 BT 359~37.0 下肢浮腫出現 時折胃痛、頭痛斯えあり	BP 100~140/50~10 P 50~80 BT 35.9~36.8 尿量1500~2300 下枝浮腫あり 朝マグミ小膜巻中だが ほとんど内級中止中 2/28ミルキング後のみ血尿
集者・メモ	看取りの件 変会の件				
家族対応	L RESPERSION				

②災害など緊急事態への対策について

<u>2024年度からBCP策定が義務化</u>されます。そこでほほえみでもBCPの策定の準備を 少しずつ行っております。

※ちなみに〈BCPとはBusiness Continuity Plan の略称で、<u>業務継続計画</u>などと訳されます。新型コロナウイルス等感染症や大地震などの災害が発生すると、通常通りに業務を実施することが困難になります。まず、<u>業務を中断させないように準備するとともに、中断した場合でも優先業務を実施するため、あらかじめ検討した方針、体制、手順等を示した計画のことです。〉</u>

現在、<u>食料や感染防具など備蓄品の在庫管理体制</u>の見直し、防火だけではなく<u>地震や水害を想定した防災訓練</u>、<u>緊急時の職員と家族へのスムーズな連絡</u>を行う為のリスト作成を行っています。

※WAMネット「施設向け事業継続計画について」から引用 https://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/dprevent/dprevent007.html

③不適切なケアの撲滅

昨年度、職員全員へ虐待と不適切ケアについてのアンケートを行いました。そこでわかったことは不適切ケアや虐待を防ぐには知識や技術の習得だけではなく、挨拶や目上の方への言葉遣い、職員同士の助け合いが大事だということ、また身体拘束をしないケアのポジティブな面を伝えることも必要だということでした。そこで今年度ほほえみでは、目標の達成のために身体拘束員会と協力して

- ●接遇や職場での言葉遣いの再確認
- ●身体拘束をしないケアの方法の事例を紹介

をしていくことで不適切ケアの撲滅につなげた いと考えています。

2.5	タッフ用	121.1	DOUG	未容易
1	Mark Control of the C			
2	物意(物体がある 歯所は変体行為であり、許されないことである・			
1	虚問を発見した時には連稿要能がある。			
á	病性の直接支生物っている			
1	安全のために1959体性更は虚性にあたらない			
6	的精神業などで揺り精神作用を抑えることは損性的虐待に多たる			
7	利用者に必要なケアを持ちないのは、並近であり遺跡である			
	言葉の暴力は心理的場所である			
0	協設を不必要に責出させたい、準備なことを買うのは在的虐待 で			
10	利用者の全統が選注に使われていないのは経済の遺例にあたる			
11	分譲に関する知識や技術、総験が未熟だと療性につながりやすい。			
12	虚時状をについての施設としての数値みがある。			
ta	ナアの質の向上に向けた発達としての単級みがある			
14	施設内外の研修に参加している			
15	職員の働きやするに関する信息に向けた発起としての原報みが あ			
16	2 四分の地模員のり度の仕方に機関を表しることがある			
17	自分が悪く指数では虚伪はないと思う			
10	唐持まではいかないが、不適切なケアがあると思う			

3 内部研修や委員会活動の報告

内部研修

- ・2月は、蔓延防止のため身体拘束の事例を通した学習を書面で行いました。
- ・3月は、認知症実践者研修を受講した職員の伝達講習を行いました。

身体拘束委員会

・3/9 に開催した委員会ではトイレが頻回になる利用者様や不適切ケアの事例について1月の内部研修で取り上げていましたので、そこで学んだ職員の感想や意見をまとめ総括を行いました。

4 登録者や暮らしの紹介

新たな登録者の紹介 A様 女性87歳 要介護 4

・勤めた会社を定年した後は、花や野菜などの畑仕事をして暮らしていたA様(女性:87歳)。脳梗塞を発症し下肢筋力の低下も見られたため、地域包括支援センターからの相談をうけ2月下旬から利用が始まりました。これまでもデイサービスを利用されていましたが、ほほえみを利用することになったのは宿泊を利用したいというニーズがあった為です。現在は週の半分以上をほほえみで暮らしていらっしゃいます。夕方になると家に帰りたいとおっしゃる日もあるのですが、話に耳を傾け気持ちに寄り添うことで穏やかにゆっくりと過ごされています。



4			担当者
4	Table 1971 1971 1971 1971		
	運営推進会議	ほぼえみ	上田
	こいのぼり見学	石野公園	R3 R1
5	消防訓練	えがお・ほほえみ	福島
T	菖蒲見学	天子の水公園	R3 R1
i	運営推進会議(合同)	えがお	上田
	七夕飾り・そうめんラン・	#(E(E) 23-	森下·甲斐
1		7 1010	100
500	夏祭り・運営推進会議	えがお・ほほえみ	上田·福島
8			
	敬老会	ほほえみ	興·豊田
9	職場体験	ほほえみ	上田
	黒田区サロン	ほほえみ	上田
	運動会	ほほえみ	小坂·福島
0	運営推進会議	ほほえみ	上田
*	消防訓練	えがお・ほほえみ	福島
200	岡留神社祭	岡留神社	R3 R1
1	紅葉見学	- Velice Gener	R3 R1
	運営推進会議	ほほえみ	上田
	クリスマス会	ほほえみ	小坂·石山·福島
2	大掃除	ほほえみ	上原
	門松作り	えがお・ほほえみ	上原
_	正月	ほほえみ	豊田·石山·興
1	IL/I	(GIA/LO)	Bm.0m.k6
- 5	節分	ほほえみ	鱦
2	運営推進会議		上田
	714-871		LIE
	ひな祭り		上原
	116.96	A CONTRACTOR OF THE PARTY OF TH	DOE: TO

5 お知らせ

令和4年4月2日職員1名がPCR検査の結果、新型コロナウイルス感染症、陽性となりました。家庭内での感染と考えられます。感染拡大防止のために当該職員と接触した職員と利用者様には、至急、自宅待機の要請を行いました。当該職員は3月31日から自宅で待機し、また職員は普段からマスクの着用や手指消毒等の感染対策を行っていましたので、誰も濃厚接触者には該当しませんでした。保健所と話し合いPCR検査を4月3日に実施しましたが全員が陰性となりました。関係者の皆様にはご心配をおかけいたしました。引き続き感染防止対策に努めてまいりますので、何卒ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

令和4年4月19日 管理者 小場佐真一

<u>ご氏名 </u>	_職名等
	_